

教育研究活動報告書

ふりがな 氏名	みやばら ひろや 宮原 洋八	所属・職名	リハビリテーション学部リハビリテーション学科教授
専門領域	理学療法学	学位称号	学士(法学).1995(平成7年)、修士(障害科学).1998(平成10年)、博士(体育学).2008(平成20年)
最終学歴	1995(平成7年)近畿大学通信教育学部法律学科卒業 1998(平成10年)東北大学大学院医学系研究科障害科学修士課程修了 2008(平成20年)鹿屋体育大学大学院体育学科研究生修了		
資格・免許等	理学療法士免許第 14459 号		
教育上の能力に関する事項			
担当科目	「老年期理学療法学、地域理学療法学、地域生活環境学、福祉機器論、見学実習、検査・測定実習、臨床評価実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ、理学療法学研究法、卒業研究、基礎演習あすなろう、あすなろう体験Ⅰ」		
教育方法の実践例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者を理解する工夫 「老年期理学療法学」(3年次配当、前期、必修2単位)において高齢者の理解のために学生の祖父母の半生記を題材としレポートを作成させた。祖父母の青春時代、仕事、健康法などを聞き取ることでコミュニケーションが取れ祖父母の偉大さがわかった。将来理学療法士で多くの患者さんたちと接する上で役立てている。 「地域理学療法学」(3年次配当、後期、必修2単位)においてさまざまなケースのニーズを紹介し、プログラムを考案させた。生活機能の低下と自立度とは関連があり、病院実習で患者さんを適切に評価できることを目標としている。 		
教材の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生による授業評価アンケートの実施 「老年期理学療法学」(3年次配当、前期、必修2単位)の授業評価により学生の授業評価を受けている。その結果、総合評価平均が3.27/4と高得点であった。 「理学療法学研究法」(3年次配当、後期、必修2単位)の授業評価により学生の授業評価を受けている。その結果、総合評価平均が3.44/4と高得点であった。 「福祉機器論」(3年次配当、前期、必修2単位)の授業評価により学生の授業評価を受けている。その結果、総合評価平均が3.23/4と高得点であった。 ・ 調査データから解析 「理学療法学研究法」(3年次配当、後期、必修2単位)において、実際に調査したデータから統計的手法を用いて処理できる能力を身につけるために解析ソフトを使用し演習した。 ・ オフィスアワーの活用 理学療法科学学生の授業理解度や相談事を把握するためにオフィスアワーを活用した。講義では理解できなかったことに対して補足説明し、さまざまな相談に応ずることで学園生活を安心して過ごし勉学に専念させる効果を得た。 ・ 講義用教材 「老年期理学療法学」(3年次配当、前期、必修2単位)の講義用教材として「高齢者障害の理学療法」宮原洋八著 大学教育出版を使用する。 		

職務上の実績に関する事項

平成 19 年度 鹿児島県笠利町の健康まつりにおいて、毎年約 100 名の町民を対象に運動機能を測定し、5 段階評価を行い個別に運動機能の維持・向上のアドバイスをした。

平成 19 年度 笠利町役場いきいき健康課内診療所において 10 年間理学療法士として患者（延べ 49,367 人）のリハビリテーションを施行しながら、障害児療養、機能訓練事業、転倒予防や介護予防教室を実施した。

平成 19 年度 笠利町基本健康診査の項目の中でメタボリックシンドローム該当者に、健康教室に平成 19 年 10 月から 3 ヶ月間参加させ、その効果を教室前後で検討した。教室は、3 ヶ月間に合計 8 回の教室を開催した。主な内容は、①医師、栄養士、理学療法士によりそれぞれメタボリックシンドロームの概念の話し、栄養指導や食事記録日誌の活用法、日常生活で身体活動を高める運動の話し。②保健師が、参加者の継続化への働きかけとしグループワーク・セルフモニタリング・目標設定などを支援した。

平成 20 年度 文科省補助事業で開催した健康づくり運動処方基礎と対策の公開講座で、「高齢者の運動能力、生活機能、ライフスタイル」と題して講演した。

研究業績等に関する事項

《 平成 19 年度～平成 23 年度 》

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	発行又は 発表の年月
地域高齢者におけるライフスタイルの測定 (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	鹿児島大学リハビリテーション医学研究会会誌 第 18 巻, 第 1 号	2007 年 8 月
要介護高齢者と運動能力, 生活機能の関連 (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	体育の科学 第 57 巻, 第 1 号	2007 年 1 月
高齢期のライフスタイルと運動能力, 生活機能の関連 (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	鹿児島大学リハビリテーション医学研究会会誌 第 17 巻, 第 1 号	2007 年
地域高齢者の転倒と運動能力, 生活機能, ライフスタイル, 社会的属性間との関連 (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	保健の科学 第 49 巻, 6 号	2007 年
地域高齢者のライフスタイルと運動能力, 生活機能, 社会的属性間との関連 (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	理学療法科学 第 22 巻, 3 号	2007 年
地域高齢者の主観的健康感と運動能力, 生活機能, ライフスタイル, 社会的属性間との関連 (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	理学療法科学 第 22 巻, 3 号	2007 年
虚弱高齢者の膝関節症に対するゴムチューブ運動の効果 (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	体育の科学 第 57 巻, 4 号	2007 年

女性高齢者の血液性状と体力、生活機能との関連 (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	体育の科学 第57巻, 3号	2007年
地域高齢者の自立とライフスタイルとの関連 (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	理学療法科学 第23巻, 1号	2008年
パーキンソン病患者の機能予後における関連因子についての5年間にわたる縦断的研究 (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	鹿児島大学リハビリテーション医学研究会会誌 第19巻, 第1号	2008年
脳卒中片麻痺患者の機能予後における関連因子についての3~5年間にわたる縦断的研究 (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	鹿児島大学リハビリテーション医学研究会会誌 第19巻, 第1号	2008年
TheRelationofWalking VelocitywithMotorAbilityand FunctionalCapacity intheCommunityDwelling Elderly (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	Journalof Physical Therapy Science 20	2008年
Longitudinal Study of the Relationshipbetween LifestylesandRelatedHealth FactorsinCommunity-Dwelling Elderly (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	Journalof Physical Therapy Science 20	2008年
超高齢者の自立度と運動機能についての調査 (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	体育の科学 第59巻, 2号	2009年
奄美大島における高齢者の運動能力、生活機能、ライフスタイルについての研究 (博士論文) (筆頭論文)	共著 (筆頭)	学位授与大学 鹿屋体育大学	2009年9月
地域在住高齢者の自立と運動機能、日常生活活動、社会的属性との関連, (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	理学療法科学 25(2)	2010年2月
メタボリックシンドローム該当者の健康教室効果の検討, (筆頭論文) (査読付き)	共著 (筆頭)	理学療法科学 25(6)	2010年6月
Structural Equation Modeling of the Relationships between Lifestyles and Related Health Factors of the Community-Dwelling Elderly, (筆頭論文) (査読付き)	単著 (筆頭)	Journalof Physical Therapy Science 23	2011

<p>地域高齢者の生活機能とヘルスアセスメントとの関連, (筆頭論文) (査読付き)</p>	<p>共著 (筆頭)</p>	<p>ヘルスプロモーション理 学療法研究 1(1)</p>	<p>2011</p>
<p>研究助成等</p>	<p>なし</p>		
<p>学会及び社会における活動等</p>			
<p>学会</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本理学療法士協会 会員 臨床歩行分析研究会 会員 日本体力医学会 会員 理学療法科学学会 会員 日本ヘルスプロモーション理学療法学会 会員、理事、評議員、査読者 <p>活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 吉野ヶ里実年ソフトボールチーム所属 戦績：2011年度公式戦1勝2敗 (ポジション 投手) 			